



力作39点を展示

下田・上原仏教美術館の写仏教室

釈迦、菩薩の制作に挑む

下田市宇土金の上原仏教美術館で年間を通して行われている写仏教室の受講者作品展が9月末まで展示ロビーで開かれている。

今年26年目を迎えた歴史ある教室で、参加者の中には15年以上通い続けている熱心な人も多く、居住地域は地元の下田や賀茂地区だけでなく、伊東市や富士市、立川市から参加している人もい

る。教室は月1回第4金曜日、午前と午後の教室があり、午前は千葉県の仏画家・尾藤政招さん、午後は東京の山田正枝さんが講師を務め計40人が受講、今回は36人が39点を出品した。

写仏は挑戦する仏画の手本からまず線をチャコペーパーという転写紙で色紙や和紙に写し取り、日本画用の岩絵具で着色していく手法。

出展の手本はそれぞれの経験やレベルにそって講師が決めたり、相談し合ったり選んでいるといい、1年がかりで完成させた力作もある。

3年がかりで普賢菩薩、文殊菩薩、釈迦(しゃか)の釈迦三尊に挑戦している15年超クラスの人たちは今年が2年目の取り組みで、獅子(しし)

今年36人が39点の力作を出品した写仏教室作品展

に乗った文殊菩薩を制作した。逆に初心者クラスは聖観世音菩薩で6点。そのほか女性の守り仏の如意輪観音に挑んだのは2年目の受講者。

そのほか十三仏、千手観音などもみられるが、毎年、千手観音を制作した受講者からは「手が多すぎて嫌になった」の感想が聞かれるとか。

2人の先生で微妙に雰囲気が違うのも毎回のこ

とで、そんな作風の違いも楽しめる。南伊豆から通う夫妻はそろって鬼子母神を写仏したが、やはりタッチがかなり違っ

みえる。受講生たちが意外に苦労するのはバックの色塗り、むらなく塗り込むのがかなり難しいという。開館時間は午前9時から午後5時(入館は4時半まで)。写仏作品も一般の入館で鑑賞する。